

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 3771400284 | | |
| 法人名 | 悠悠 有限会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム悠悠不動の滝 | | |
| 所在地 | 香川県高松市塩江町安原上東203番地6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年6月1日 | 評価結果市町受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosyoCd=3771400284-00&PrefCd=37&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 香川県高松市番町一丁目10番35号 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年7月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に掲げている「やさしい」を念頭に、入居者様の笑顔が少しでも多く見られるよう、「月1回の楽しみ事」として希望や要望をお聞きして実践している。また、季節の催し物など、年に4回はご家族様をご招待し、共に楽しい時を過ごしていただけるよう支援している。
「チームワークを大切に」を目標として、職員同士お互い助け合い、そして楽しく働ける職場作りを目指しており、それにより入居者様により良いケアが提供できると考えている。常に「入居者様の笑顔が見たい」の想いで職員一同、毎日の業務にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、緑溢れる山懐の中にあり、川のせせらぎや鳥のさえずりを聞くことができ、利用者は豊かな自然に抱かれながら、リラックスしてゆっくりとした時間を過ごしている。
管理者をはじめ全職員が、事業所の目標である「チームワーク」を大切にして、利用者に優しく接することを心がけている。今年6月には、職員一丸となって看取りに取り組み、何物にも代えがたい経験となった。また、地域との交流についても、職員が滝の清掃に参加したり、避難訓練には近隣住民の参加もあるなど、地道な取り組みが実を結んでいる。
開設して10年が経過しているが、常に初心を忘れず、サービスの継続的な改善に取り組んでいる姿勢がうかがえる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

悠悠不動の滝(第1区画)

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「や」優しい心で「さ」さわやかな笑顔「し」信頼関係をたいせつに「い」一緒に楽しく、という法人理念で認知症高齢者との関わり大切にしている。「やさしい」には地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。ユニットの理念として「チームワークを大切に」を掲げてお互い助け合うことで、入居者様にさらに良い介護ができるを考え、事務所、リビングに掲示し、朝の申し送り時に唱和することで気を引き締めて業務にあつたっている。 | 法人全体の理念をもとに、事業所独自の理念を策定し、毎年度見直しをしている。 管理者の、「人間関係を大切にして、お互い助け合う。そうすることで、利用者にも優しくなれる」という強い思いから、理念の一つに、「チームワークを大切に」ということを掲げてあり、当事業所の根幹となって、様々なサービス提供の場面で反映されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の方々に運営推進会議や避難訓練に参加していただいている。また、季節花や野菜、お米などをいただいたり、行事にも来ていただいたりするなど、親しいお付き合いをさせていただいている。 | 事業所のオープン以来、職員が滝の清掃活動に参加したり、近隣の方に地道に挨拶や声かけを続けており、お米やたけのこ等のおすそ分けをいただくことがある。また、お互いの安否を気遣うこともある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ご家族に理解を得ながら、地域の人々のホームの見学を受け入れている。認知症についての相談があればお聴きしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2か月に1回開催しており、話し合いの中で得た情報、意見を活かしている。会議の内容は議事録にして、内容を把握していただけるようにご家族に毎回郵送し、ご家族の意見も参考にしている。 | 会議では、事業所からの報告のみならず、運営についてアドバイスをもらったり、困難事例等について検討している。また、近隣の方との交流の場となっており、ボランティアを紹介してもらうこともある。 | 会議で、外部評価の結果及び結果に基づいて策定した目標達成計画を報告し、会議のメンバーにモニター役となってもらうことで、会議とサービス評価が連動されることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ホーム便り等を町支所、地域包括支援センター、病院に置かせていただいている。その際お話をさせていただいたり、何かあれば相談にのっていただいている。 | 特に地域包括支援センターの職員とは緊密に連携をとっており、気軽に相談できる間柄である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束に関するマニュアル」を作成している。3か月に1回委員会を開催しており、職員が内容を理解し話し合っている。また、鍵をすることで、より不穏症状の増すことを職員は理解し、業務にあつたっている。 | 3か月に1回、事業所内で委員会を開催し、さらに法人の本部会でも、身体拘束廃止に向けて検討している。また、マニュアルを作成しており、日頃から職員に目を通すように周知するとともに、マニュアルを効果的に活用するために、月に1回、勉強会を設けている。 | |

悠悠不動の滝(第1区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 「虐待防止対応マニュアル」を元に身体拘束委員会にて話し合っている。また、定期的な勉強会にて指導を受け、職員全員で意識してケアにあたっている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 「日常生活自立支援事業」を利用している入居者様もあり、毎月訪問していただいている。また、「成年後見制度」を利用していた入居者様もいたため、職員の理解も深まっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分に説明を行い、説明後に生じた質問点にすぐに回答できるよう配慮している。また、文書による「グループホームQ&A」を独自に作成し、グループホームに関する内容が分かりやすく理解できるようになっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に「ご要望箱」を設置している。家族会を年4回開催し、要望を気軽に話し合える機会を設けている。家族の意見は職員間で話し合い、対策・改善し、家族に説明して一緒に考えている。また、運営推進会議でも議題として取り上げ、話し合いの場をもっている。 | 家族会を年4回開催し、また、年に1回、アンケートを実施している。アンケートで、事業所内の臭いについての指摘があり、改善した実績がある。 日常の要望等は、職員で共有・検討して、家族に回答している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、運営者参加の定例会議を開催し、個々の利用者様に関する事、職員間の意見や提案を聞いている。また、職員自己評価シートを採用しており、それをもとに職員の意見を聞く機会を設けている。 | 定例会議を開催し、職員の意見や提案を聞くとともに、年に2回、管理者による個人面談を実施している。 管理者は、普段から職員が何でも話しやすいように声かけしており、職員の方から、相談を受けることがある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアパスを取り入れ、また、「職員自己評価シート」を提出し、それに基づき管理者が職員と面談し、個々の職員の勤務状況を把握している。そして問題や悩みを解消し、向上心を持って働ける職場作りをしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間計画の中で、内部での定期的な研修会を計画しており、様々なテーマでの知識の習得を行っている。また、外部の研修はその都度、職員に情報として連絡し、参加する機会を作っている。参加者は研修報告書を提出し、質の向上に活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 当グループ内の他事業所との交流の機会を設けており、お互いサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回の相談時から本人、ご家族より十分な状態把握に努めて面接を行い、要望、不安等を聞き、安心していただけるよう努めている。入居後は特にコミュニケーション多く取り、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回の相談時からご家族との関わりを多く持ち不安の解消や希望、要望をしっかりと聞きしている。家族会や行事には、できるだけ参加していただけるよう働きかけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回の相談時からしっかりと状況把握に努めて面接等を行い、在宅での生活が継続できるか、グループホームへの入居が適しているかどうかを見極めて支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 昔の仕事、戦時中の話など本人の好まれる話をしたり、一緒に掃除や炊事、外出をするなど共に生活をしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事の際、ご家族にも参加していただき、一緒に過ごすことで交流を図っている。その他にも気軽に来ていただけるよう働きかけを行っており、面会があれば、ゆっくり過ごしていただけるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や知人等の面会があり、居室やリビングなどでお茶を飲みながら過ごされたりしている。また、スーパーへの買い物など定期的に行っており、関係継続のための支援を行っている。 | 家族や知人への、手紙や年賀状を代筆したり、面会があったときには、さりげなく名前を聞くなど、利用者の馴染みの関係について把握し、関係が途切れないように努めている。また、神社やお寺、スーパーなど、利用者にとっての馴染みの場所にドライブに行っている。 | |

悠悠不動の滝(第1区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりが主役になれるように場面作りをし、また、役割を持つことで生きがいや楽しみが増えるように努めている。お互いが良い関係を保てるように職員が間に入り、配慮している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居の際はご家族、主治医や、関係する担当者間で十分な話し合いを行っている。また、このホームから離れても、いつでも相談にのれることを話している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションを大切にしており、日々の会話の中で想いや希望をお聞きし、実現していけるようケアに取り組んでいる。 | 月に1回の楽しみごとを実現する際に、利用者から、「何が食べたい」「何がしたい」などの希望を聞いている。また、日頃から利用者とのコミュニケーションを大切に、利用者の思いや意向を把握するように心がけている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 独自の「家族状況とGHに期待する事」「バックグラウンド」「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や実態像の把握に努め、本人が暮らしやすいように努めている。ご家族や親戚の面会時に得た情報は職員で共有し、ケアに活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の記録に一日の活動、行動、身体状況などを詳しく記録し、状態を把握している。また、急に変化があったときは職員全体で話し合い、現状の把握と今後の対策を相談している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護評価作成時はアセスメントを行い、担当者会議を開催して本人様やご家族の想いや希望をお聴きし、作成している。また状態の変化があればすぐに会議を開き、新たな計画を作成している。 | 計画作成前に、面会時や電話により家族の意向を確認し、担当者会議を開催して、計画を策定している。記録に要する時間を軽減し、直接、利用者や接する時間を増やすために、現在、計画書の様式を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活上のニーズと目標に基づき、個々の記録に言動や行動の変化、身体状況の変化を記録し、計画の見直しに活かしている。 | | |

悠悠不動の滝(第1区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ホームと家族が気兼ねなく家庭的なお付き合いができるように、家族会や面会時に話している。希望があれば居室へ宿泊していただけるように、布団なども用意している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 個々の希望に応じて、訪問歯科や理容室などに訪問していただいている。また、行事などには歌やダンスなどのボランティアに訪問していただくなど、楽しく過ごすことができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の「湊翠館高松南診療所」は、24時間オンコール対応の在宅療養支援診療所であり、また、近くの総合病院と協定書を結んでおり、適切な医療が受けられ、相談できるようにしている。 | 24時間オンコール対応の在宅療養支援診療所がかかりつけ医となっている。また、近くの総合病院と協定書を結んでいる。それ以外の医療機関への通院は、基本的に家族に依頼しているが、処方箋はかかりつけ医を通し、家族が希望する病院と事業所のかかりつけ医の連携をとっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 湊翠館高松南診療所から看護師が週1回勤務している。また、24時間対応していただけたため、利用者様の急変時には迅速に対応できる体制にある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 提携している病院とは常日ごろからお世話になっており、関係づくりに努めている。また、入院時には何度か面会に行き、不安を和らげるよう支援して、主治医、ご家族と相談しながら早期退院のための対応をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ホームにおいて「重度化した場合の対応に関わる指針」がありその中でできること、できないことを見極めている。「看取りについての指針」を作成し、主治医と連携して、できる限り利用者様とご家族の意向を尊重しながら、支援を行っている。 | 家族には、終末期の意向について、繰り返し把握するようにしている。家族の多くが、住み慣れた事業所で最後を、という希望を持っており、今年6月に実際に看取りを経験した。その際は、医師や家族と連携しながら、職員が一丸となって取り組んだ。 | 管理者は、6月の看取りの経験は「何物にも代えがたい経験」と感じている。当事業所において、看取りを希望する家族が多いので、事業所の力量を見極めつつ、さらに終末期のケアが充実していくことを期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 独自の「事故防止マニュアル」を作成している。また、年間研修計画の中に位置づけ、定期的に学習や実習をしている。新人職員や参加できなかった職員には、管理者が個々に指導を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、避難訓練 消防訓練を行っており、地域の方々にも協力をお願いしている。また、月1回の勉強会でも定期的に学習をしている。 | 消防署の「まずは、消防訓練を確実に行うこと」という助言にもとづいて、年に2回、訓練を実施している。訓練には、近隣の住民が参加することもあり、役割分担を決めている。備蓄は、水や缶詰などを中心に数日分準備している。 | 火災に加えて、風水害や土砂崩れ等、様々な災害を想定し、有事の際の対応のあり方について話し合うなど、職員の災害に対する意識がさらに向上することを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成しており、個人情報について適切な取り扱いをしている。また、入居者に対しては尊厳ある態度で接するように、会話や言葉かけに配慮している。 | 事業所が開設して早い時期から、接遇には非常に力を入れており、毎日、言葉遣いや発生の練習をしている。利用者のプライドを傷つけず、言葉遣いが慣れ合いにならないように、管理者をはじめ、職員同士が気を配っている。 改善すべきことがあれば、その場で指導して、申し送りノートなどに記載し、職員全員がサインをするようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が主体であることを認識し、自己決定できるような声かけを心がけている。コミュニケーションを大切にしており、希望や要望を汲み取れるよう支援を行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務中心、職員のペースにならないように心がけている。声かけもゆっくりと行えるように一人ひとりのペースを把握し、ゆったりと過ごしていただけるよう支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服選びや髪型など、利用者様の希望にそって助言したり、一緒に行ったりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一緒に食事作りを手伝っていただいている。材料を切ってくれる方、盛り付けをしてくれる方、食器拭きなど、本人のできることやしたいことを一緒に行い、昼食も一緒に同じ食卓を囲んでいる。また、月一回は食べたいものをお聞きし、メニューを変えて召し上がっていただいている。 | 法人本部の栄養士による献立、食材を使用している。見本を一つ作り、材料のカットや、盛りつけなど、利用者それぞれが力を発揮して調理している。月に1回は、利用者の食べたいものを聞いて特別メニューを提供している。 また、職員と利用者は一緒に食事を楽しんでいる。 | |

悠悠不動の滝(第1区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士が献立を作成している。毎食の食事摂取量を介護日誌に記録している。水分を取りたがらない人には、好みの物を飲んでいただくなど、工夫をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後には口腔ケアを支援している。磨き残しがある方は、一部介助している。異常や気になることがあれば、訪問歯科に相談している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定期的な誘導を行い、トイレでの排泄ができるように努めている。オムツ着用はできる限りしない方針で支援している。また、水分摂取や、散歩や適度な運動を行うなど、気持ちよい排泄に繋がられるよう支援している。 | 利用者個々の排泄パターンを把握し、カンファレンスで検討するなど、その人にあった誘導時間や方法により支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 散歩や適度な運動を行っている。水分をしっかりと取っていただけるよう、常に働きかけを行っている。献立には、根野菜などの繊維の多い食材、乳製品を必ず取り入れ、スムーズな排泄ができるようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個々の体調に合わせて入浴時間や温度調節を行っている。週三回入浴しているが、それ以外でも希望があれば、それに浴えるように支援している。必要な方には足浴も実施している。 | 週3回、入浴を実施している。限られた時間の中で、できるだけゆっくり入浴できるように努めている。冬場の足浴は、利用者に大変喜ばれている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は外出、散歩、日常生活の手伝い、レクリエーションへの参加など、活動量を増やして安眠に繋げている。また、眠れない人がいれば、話を聞いたり、温かい飲み物を用意したりするなど、安眠できるよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更は、業務日誌の服薬欄に記入して送り、「薬の説明書」を個々のファイルに綴じて、全員が分かりやすいように管理している。症状の変化があれば医師に相談し、指示を仰いでいる。 | | |

悠悠不動の滝(第1区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | できることや好みを見極め、役割を持った生活をしていただけるよう支援している。「月1回の楽しみごと」を用意し、願いを少しでも叶えていけるよう職員全員で取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者様のご要望をお聞きし、買い物に出かけたり季節の花を見にドライブに行ったりしている。それ以外でも、天気の良い日は散歩や日向ぼっこなど、屋外に出る機会を作るよう支援を行っている。 | 月に1回の楽しみごとで外出したり、買い物に出かけている。利用者の重度化により、以前に比べて遠出の頻度は少なくなったが、日常的な散歩などにより屋外に出る機会を確保している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 財布を自分で持っている方もいる。買い物の際には職員がそばに寄り添い、個々の量に応じてさり気なくサポートしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様のご希望があれば、年賀状や手紙を用意し、出せるようにサポートしている。また、家族や親類、友人などに電話で話ができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内の季節の花を生けたりリビングには、ソファを置いて皆様とテレビを観たり、気の合う方とお喋りをして過ごされている。また、玄関周りにはプランターで花を育てたり、ベンチを置き日向ぼっこしながら談話したりしている。 | 木の温もりを感じさせるリビングには、利用者手作りの季節の飾り付けや花が生けてあり、そこで、利用者はソファにゆっくりと座ってテレビを観たり、気の合う利用者同士が会話を楽しむなど、リラックスして思い思いに過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにはソファやテーブル席があり、一人ひとり思い思いの場所で過ごされている。気の合う方とソファに座り、お喋りやテレビを観たりして過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には使い慣れた生活用品を持ってきていただくようお願いし、環境が急変しないように配慮している。本人の趣味に合わせて、机や椅子、テレビなどを使用している方もいる。 | 居室には、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでもらい、環境が急変しないように配慮している。居室からは豊かな自然環境を眺めることができ、居心地良くゆっくりと過ごすことができる。 | |

悠悠不動の滝(第1区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---------------------------|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | それぞれの身体機能に合わせて、各箇所に手すりを設置している。浴室内は、手すりや介助バー、滑り止めなどで安全に努めている。手作りのカレンダーを居室に貼ったり、自分の部屋が分かりやすいように表札を付けたりしている。 | |

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|--------------------|-----|---|--|
| | | | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念の一つ一つの意味を、ミーティング、スタッフ会議の中で理解しやすく伝えており、全員が共有しあい、日々実践に取り組んでいる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホームの行事(夏祭り、敬老会、クリスマス会)に近隣の方たちを招待し、地元の方々との交流に努めている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ご家族に理解を得ながら、地域の方のホームの見学を受け入れている。また、毎月第三日曜日の不動の滝の清掃に参加させていただき、地域の人達との交流を楽しみにしている。 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2か月に1回開催しており、意見交換で出た情報や要望をサービスにつなげている。困難事例を取り上げて、それについて皆様と話し合い、ご意見をいただくことで実践している。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | グループホーム便りを発行するごとに置かせていただいたり、また、権利擁護や成年後見制度が必要な方の相談に載っていただいている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に1回、「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員全員で話し合っている。本部会議でも身体拘束について取り上げて、内容を確認しながらケアに反映させている。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルをもとに話し合いの場を持っている。また、定期的な勉強会で講師による指導を受け、虐待について学んでいる。カンファレンス時も虐待に該当することはないか、常に話し合いの場を設けている。 |

悠悠不動の滝(第2区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|-----|--|--|
| | | | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 「日常生活自立支事業」を利用している入居者様や、「成年後見制度」を利用している方もおり、お金を管理していただき、ホームに言い難い要望など、双方の橋渡しの役割をさせていただいている。 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 細かく説明させていただいたうえで、利用者やご家族の不安、疑問点を訪ね、十分な説明を行っている。「グループホームQ&A」を作成している。 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎年1回、外部評価の家族アンケートと別に、ホームから家族アンケート(匿名)を郵送し、日ごろ言えない細かな点まで表現できる機会を作っている。アンケートは集計して改善点をまとめ、ご家族様全員に渡している。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例会議の議題、議事録は職員全員が回覧し、意見を述べるようにしている。次回までに問題解決策などがあれば職員間で話し合い、様々な意見を定例会議に持ち込み、話し合いで解決している。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一般介護職評価シートにより自己評価、人事考課など、個々の職員のスキルアップを目指している。それに基づき、個人の面接から問題や悩みを解消し、向上心を持って働けるよう職場作りをしている。 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間計画の中に内部での定期的な研修会を計画しており、様々なテーマで専門の講師のもと、行っている。外部研修の参加者は研修報告書を提出して勉強会で発表し、質の向上に活かしている。 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の連絡協議会に参加しており、特別養護老人ホーム、老人保健施設、病院療養型通所などの職員と情報交換や事例検討会を行い、交流の場をもっている。他に、グループホーム3事業所と交流を持ち、入居者同士、職員同士お互いに行き来できる場を持っている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------------|-----|--|--|
| | | | 実践状況 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回の相談時からしっかりと状態を把握し、面接を行い、ご本人が必要とされていることを導きだしている。 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回の相談時からご家族様の話に耳を傾け、不安、悩みの解消や希望・要望をお聴きしている。ホームができる支援を説明し、ご家族の不安が和らぐよう努めている。 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回の相談時から状態を把握することに努めて、面接を行い、ご本人とご家族が必要とされていることを見極めている。他のサービスを利用されている方は事業所を訪問し、利用時の状態をお聴きしている。居室サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報をいただいている。 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩であることに尊敬し、入居者が主体であることを忘れずにサポートさせていただいている。過去に体験したことがある役割を再び持っていただき、様々なことを教わりながら、共に家族の一員として暮らしている。 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の心労や想いに耳を傾け、意思を尊重して、安心していただけるホームになるよう、ご家族と共に何事も共感し合えるような関係を築いている。 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの関係を大切にし、手紙や年賀状のやり取りを支援している。また、いつでも友人や親類の方が訪ねて来られることを歓迎している。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様が自室で閉じこもることがないように声かけを行い、コミュニケーションをとっている。他の入居者との関係がうまくいくように、職員がさり気なく間に入るように心がけている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|--|
| | | | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居時には、ホームから離れていてもいつでも相談にのれることを伝えている。長期入院で退居された入居者で要望があれば、洗濯物を預かりに行き、洗濯している。 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人と関わりを多く持ち、何を願い希望されているのか、ご本人の視点に立ち、より良く暮らしていけるようケアに取り組んでいる。「月1回の楽しみ」として、日ごろできない個々の希望をできるだけ叶えるよう取り組んでいる。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 独自の「家族状況とグループホームに期待する事」「バックグラウンド」「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態像の把握に努めている。 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の記録に一日の言動や行動、身体状況などを詳しく日誌に記入し、状態を把握している。また、急な変化があった際は、職員全体で話し合いをもち、状態を共有している。 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の意見を取り入れ、また、家族の意見、また医療面から見たケアなどを取り入れて、本人がよりよく暮らせるための介護計画を作成している。月1回のケアカンファレンスを開き、本人にとって一番良いケアは何かを考えながら、計画作成している。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 言動や行動 身体状況に変化があった場合、個々の記録を詳しく日誌に記入し、ケアを変える必要があるかどうか、必要時にはカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 遠方のご家族様が面会に来られた際は、宿泊できるように寝具などを用意させていただき、ホームと家族が気兼ねなく家族的なお付き合いができるよう、柔軟な支援をしている。 |

悠悠不動の滝(第2区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|---|--|
| | | | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域包括支援センターの担当者とは、2か月に1回、「運営推進会議」で情報交換や指導をいただいている。また、2か月に1回、理容をいただいている。また、消防訓練は入居者様、ご近隣様も一緒に訓練に参加している。 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 6月3日から湊翠館高松南診療所が主治医になり、月2回の往診があり、また24時間体制で医療が受けられるようになっている。また、看取りに関しては現在、訪問看護で毎日、往診してもらっている。 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 提携している診療所から、看護師が常に24時間常勤していて、いつでも急変時には迅速に対応ができる体制になっている。 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には家族等と相談しながら、医療関係に対して本人に関する情報提供をしている。また、本人が不安にならないように頻回に面会をしている。また、早期に退院できるように、ご家族や医院に詳しく病状報告を受けようとしている。 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ホームにおいて「重度化した場合の対応に関わる指針」があり、その中でホームができること、できないことを見極めている。現在、本人様、ご家族様の要望により、「延命はしたくない」「最後までここでお願いしたい」との思いを、主治医も交えて話し合いを持ち、主治医の方針に沿って医療との連携を取りながら支援している。看取り介護実施計画書、同意書を作成している。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年間研修計画の中に入れて、定期的に学習、実習をしている。AEDや心肺蘇生の講習を受け、何度も繰り返し実習することで慌てずに対応できるようにしている。 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練、消防訓練を行っている。そのうち1回は、夜間を想定して訓練をしている。近所の方も参加していただき協力を得ている。スプリンクラーや2階からの避難階段も設置した。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|---|---|
| | | | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様の自尊心を傷つけないように、言葉かけや対応に注意している。また、排泄介助の際はドアを閉めて行う、入室時にはドアをノックするなど、対応に留意している。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 介護者側が決めてするのではなく、自己決定ができるように考えている。残存能力を大切にし、自立に向けて支援している。自信の持てるような会話をしたり、自己決定ができるように努めている。 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員中心や業務中心にならないよう、一人ひとりがマイペースで、楽しく暮らせるよう支援している。 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2か月に1回、美容師が訪問し、カットや顔そりを希望に応じて行っている。整容の乱れや同じ服装ばかりの方には、さり気なく直すようサポートしている。 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の盛り付け 食器拭き、食材を切るなど、一人ひとりの力量に合わせて行っている。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量は毎食後記録しており、摂取量を確保して、個々に対応している。水分を取りたがらない方は、十分な水分摂取ができるよう好みの物を用意するなど、工夫している。 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアは必ず行い、不十分な方は職員が一部介助している。口腔状態を把握し、必要があればご家族と相談し、治療や入れ歯の修理、調整、作成を依頼している。 |

悠悠不動の滝(第2区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|---|---|
| | | | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失禁のある方には排泄チェック表で排泄リズムを把握し、誘導を行っている。誘導はさり気ない言葉にて行い、羞恥心に配慮している。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立に、根菜類や繊維の多い食材を多く取り入れている。水分量に気をつけながら適度な運動で排便を促し、便秘体操を取り入れ、薬に頼らないよう取り組んでいる。 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は決めているが、個々に合わせて柔軟に対応している。体調などで入浴時間に考慮しながら、本人の希望も叶えられるようにしている。足の血行が悪い方が多く、入浴がない日は足浴を行っている。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居前の生活リズムをご家族にお聞きしている。メリハリのある暮らしも考慮しながら、状況に応じて生活習慣を崩さないよう配慮している。また、薬に頼ることなく、職員の対応にて精神的安定を図っている。 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様個々について、処方箋にて薬の効果・効能、注意事項を把握できている。症状に変化があれば医師に相談し、指示を仰いでいる。 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の生活歴や趣味を把握し、好まれることを職員間で見つけながら提供している。利用者の自己決定により、「月1回の楽しみごと」を決めて気分転換を図っている。 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩したり屋外で体操したり、また、希望により買い物に出かけ、個々の好みの物を買ったりするなどの支援をしている。 |

悠悠不動の滝(第2区画)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|--|--|
| | | | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持は、個々の力量に応じて管理している。買い物の際には職員が傍に寄り、さり気なく立って、本人がお金を支払う機会を作っている。一人ひとりの力量に応じて支援している。 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば電話や手紙の支援をしている。 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | カーテンやブラインド、天窓には日差しをさえぎるシートを貼り、日差しが柔らかくなる配慮をしている。温度調節や換気を小まめに行い、心地よく過ごしていただけるようにしている。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングテーブル以外に、ソファーに向かい合って座れるようにし、対面で会話ができたり、一人で寛げるようにしている。 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使いなれた家具や生活用品を持ってきていただき、環境が急変しないようにしている。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 身体能力に合わせ、各所に手すりを設置している。また、安全に入浴できるように、浴室に手すりや浴槽台 滑り止めなどで安全を確保している。また、居室が分かりやすいように手作りの表札を取り付けている。 |